

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム里の家平岸 しらかば	評価実施年月日	平成20年6月1日
評価実施構成員氏名	成田 順子 奈良 優子 坂本 麻衣子 窪田 豊子 本間 ツナ子	首藤 理恵子 佐藤 優子	
記録者氏名	樋口 恵子	記録年月日	平成20年6月1日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	○	<p>理念は法人の運営方針にも深く繋がる部分である為、その理解と推進には常々指導教育を徹底しているが、入居されている全ての方の暮らしがより良いものとなるよう、今後も更にサービスの充実を図っていく。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	○	<p>理念を単に理解するだけでなく実践に努めていけるように努めている。①安心して生活出来る家であること、②生きがいを持って生活出来る家であること、③心豊かに生活出来る家であること。④ご本人が馴染んでいたことを里の家でも続けられる工夫を常に学んでいく。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	○	<p>理念については利用案内時に説明文で周知を図りホームの見やすいところに明示し入居者並びにその家族に来訪時説明も行っている。</p> <p>日々の業務姿勢、地域に対し親しみある接し方を通して地域や家族様への理解を深めていきたいと考えている。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	○	<p>笑顔で隣近所の方々と自然にご挨拶出来るように取り組んで行くように考えている。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	○	<p>入居者の方々の身体状況も考慮して全員ではないにしても今後は更に積極的に関わりが持てるよう取り組んでいきたい。</p>
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	○	<p>開催場所は当ホーム内ではなく系列法人施設敷地内(北広島市大曲地区)でのものとなっているため近隣在住の家族の方々にもお越しいただけるよう、また同行して頂けるように考えている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	○	要改善と評価された項目については年度中早期に改善出来るものから取り組み適正な状態にするように取り組んでいきます。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	○	話し合いの中で挙げた様々な意見を更に積極的に実施し、近隣への参加呼掛け等も推進していく事で運営推進会議の内容が実際に活かされている事を知って頂くよう努めていく。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	○	今後は管理者のみならず介護従事職員も行政主催の催しに入居者の方々と参加が出来るように取り組んで行くことを考えています。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	○	今以上に全職員の理解を深める為、都度の会議や研修参加等で知識を得られるよう努めていく。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>	○	全職員が「虐待」と「身体拘束」の考え方を明確に理解出来るように新しい職員が入職しても指導が行えるような体制を築いて行くことを目指している。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	○	特定の職位にあるものだけでなく全職員が同じように家族の方々に接し不安を与えることなく安心出来る関係が築けるようにユニットを上げて取り組んで行こうと考えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>反映に心がけ可能な物については随時改善を行っている。</p>	<p>○</p>	<p>入居者の方々、家族の方々が内面に持ったわだかまりを意見、要望として汲み取り対応することで苦情に発展することのないように全職員鶏組んでいる。</p>
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>連絡は密接に行っており、面会時には全職員が対応している。また、毎月の「里の家たより」を発行し家族様に郵送している。</p>	<p>○</p>	<p>勤務職員全員が小さな変化についても報告し家族の方々との対応については記録として残して行けるように今後更に取り組んで行く。</p>
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>反映させている。入居者や家族の方々は自由に意見や要望を言えるような体制で必要に応じいつでも改善を図られる状態にある。意見箱の設置をしている。</p>	<p>○</p>	<p>家族様からの意見や苦情、不満等については本部に相談窓口を設けているが、面会事等に聞かれた訴えについても記録として残し対応検討する流れが出来ている。今後も同様の流れと対応を継続していく。</p>
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>運営に関する職員意見の反映については、毎週定期的に本部職員が現場に入り各種会議の際及び日常業務の中で聞き取りを行い、その内容について本部で検討された後、必要と判断されたものについて反映されている。</p>	<p>○</p>	<p>入居者様の生活上必要な物品等の設備に関する職員意見が殆どであるが、随時改善対応行っており、より生活し易い空間作りにも努めている。</p>
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>特に入居時には管理者やリーダーが勤務に当たるよう調整を行っており、それ以外の特変時についても必要範囲でシフトの組み換えを行っている。しかし、普段日常については、全職員が同一の対応が取れるよう指導教育している為勤務変更はない。</p>	<p>○</p>	<p>職員が常に利用者様に沿った動きが出来るようにしている。</p>
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>職員異動は基本的には行っていないが、不慮の事故等での一時的な変更はある。職員異動が入居者様にとってダメージと成り得る事は法人として十分理解把握している為、今後も職員と入居者様が馴染みの関係を築けるよう配慮継続している。</p>	<p>○</p>	<p>離職者を極力抑える努力は行っているが長期的な担い手の確保が困難な状態があるため今後も法人本部と相談を行いながら入居者の方々に最小限のダメージで従事者確保を図って行くことを考えている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>法人内での研修の実施と外部研修への参加についても業務に支障が生じない程度で行われている。</p>	○	採用経験年数と資質を考慮して法人本部で選抜して多くの職員が外部研修に参加出来るように配慮している。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>本部内による、月1回の合同会議で情報交換は行われている。また、管理者は地域の管理者連絡会に出席し、同業者との交流を行っている。</p>	○	守秘義務等の兼ね合いもあり中々具体的な内容までは意見交換はなされないが、互いに困っている事や職員の質向上について同じ目線で話し合える関係を築いていきたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>懇親会の開催、身体のリフレッシュを考慮した施設(整骨院)の利用を可能にしている。</p>	○	今後、互助会だけでなく職員意見が更に聞き入れられる機会を本部で設けていくよう努めている。スペース的な問題は理解出来る為、その他の環境整備等で休憩時間のストレス緩和に努めていく。
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>現在職員の自己啓発に伴う資格取得に関しては評価を行うように法人本部で行っている。</p>	○	多くの勤務職員が自発的に国家資格や関係資格の取得が行えるような向上心を持って働ける職場環境を築けるように日々進んでいる。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>密接な関係作り心にかけている。また要望を傾聴、実現に心にかけている。</p>	○	家族様と離れ独居及び入院されていた方の希望等の聞き取りには困難を極める事もあるが、入居されてから密に関わりを持つ事で情報収集し、それにより得た情報を可能な限り早期に実現し満足度に繋げる努力をしている。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>実施している。面会時、電話連絡時に小さなことでも汲み取る努力を行っている。</p>	○	現在特定の職種の者が行っている。全職員が家族の方々に同じ対応が出来るように今後は取り組んで行く。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	努めている。(例 札幌市実施の紙おむつ支給事業使用について)	○	今後は利用者と家族の方々と密に相談を行いながら他のサービス利用についても情報を提供出来るように取り組んで行く(例 地域福祉権利擁護事業、成年後見制度等についての情報提供)。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	行っている。入居に当たっては見学と相談の時間を設けて利用者や家族の方々の十分な理解をいただいてからのサービスの開始を行っている。	○	本人様の意思確認が明確に出来る方とそうでない方がいらっしゃるが、特に意思確認が困難な方について満足度や安心感を理解把握する事にも努めている。新たな情報を知り得た場合の迅速な対応について今後も継続し実践していく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	築いている(例 生活経験を活用していただいている)。	○	該当する場面を個々人様に対して提供し、入居者様が役割があると実感でき、共に支え合う関係作りを更に推進していく。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	共生を心がけ実践している。	○	協力的なご家族様とそうではない方との開きはあるが、長く生活を共にし密な連絡体制を継続する事で少しでもケアに関心を抱いて頂けるよう努めている。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族の方々が自由に行き来できる気軽な関係が築かれている。	○	家族の方々との関係構築においては気軽さだけではなくサービス業の基本に沿って礼節を尽くし関係の根本に信頼(ラポール)があることを前提に関係作り心がけて行く。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの場所に出掛けたりする事で、今までの関係が途切れないようにしている。	○	途絶えがちであるが今後は繋がりが細くなっても途絶えることなく繋げて行くために職員全員で努めて行く。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	コミュニケーションに困難がある方へは筆談での関わりを多く持つように心がけている。	○	会話や理解に困難がある入居者さん同士には職員がさり気なく介入し良好な関係を持てるように努めて行く。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退居となられる際には事業所側で次の行き先について責任を持ち支援させて頂いており、退居された後もご家族様が遊びに来て頂ける等の関係が築けている。	○	契約が終了した時点での関係は保留されることがすくないためこの件についても細くなってもとぎれることなく生活の現場職員、運営事務側職員で努めて行く。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	健康に影響が生じない範囲内で入居者の方々が安全に暮らせるための実現に努めている。	○	表現する事が困難な入居者様に対して、本人様にとって選び易い選択肢を設けたり、絵やジェスチャー等でも汲み取る工夫にも更に努めて行きたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	バックグラウンドの把握に努め新しい生活の場において入居者の方々が混乱を生じないための配慮は十分に行っている。	○	入居にかかる面談時から利用者の個人情報の把握については慎重且つ確実に今後も行いリロケーションダメージの緩和と解消に今後も努めて行く。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	把握に努めているが漫然と画一的なサービスの提供に陥ることなく入居者の方々の気分転化に力点を置きサービスの提供に努めている。	○	1日の流れに限らず、1週間、1ヶ月等長い期間での本人様状態の変化の把握確認を継続して実施していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な管理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画は職員で評価を発表して計画作成担当者はそれらを網羅してケアプランの作成を行っている。	○	今後も入居者様の意志希望を中心に多くの意見やアイデアを計画に反映していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な管理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3か月を基準に見直しを行っている。しかし、突発的な傷病や怪我によりこれまでと違うサービスの提供の必要性の事実が生じた場合はその事実が発生した日を以て新たなケアプランの作成を行っている。作成に当たっては本人、家族の要望を確認しながらその内容を確実に反映し作成に当たっている。	○	常に入居者様の変化やニーズを見逃さずに必要に応じた見直しを行う事で現状に即した計画の作成に努めていく。
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	見直しを行うことで確実なケアプラン作成の根拠としているが画一的な記録になりがちであるため今後も引き続き見直しを行うための記録に努めて行く。	○	入居者様を様々な側面から見て、より具体的な個別記録となるよう努めてく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	柔軟なサービス提供に努めている。	○	事業所側の対応とし様々な要望に応える心構えは出来ている。今後も継続して関りを深める対応に努めていく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	本人様の意向及び必要性を考慮し、町内行事への参加を継続的に実施している。また、消防署とも緊急時の体制等で助言指導頂けている。	○	開設時より地域に根ざした感が実感としてあり、地域の方々からの呼掛けや、事業所側からのお誘いについて円滑な交流が行なわれるようになっている。地域の方々のご協力で実現する頻度も増加している。
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	利用者のに応じて必要なサービスが受けられるように家族の方々に情報提供と相談、事務手続きの支援行っている。	○	同法人で運営する他事業所のケアマネージャーとケース等について相談する機会があり、事業所の機能を十分活かし本人様のより良い生活について検討が行えている。今後も更に同様の取組みを継続していく。
42 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議を通じ、包括支援センターの方からのアドバイス等受けられるようになっている。具体的内容の話になるケースはまだ少ないが、必要性に応じて協働していく考えである。	○	今後も運営推進会議内だけでなく、その必要性に応じ随時協働して頂けるよう関係を深めて行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族などの希望を大切に、納得得られた掛かり付け医と事業所の関係を築きながら、適切な医療尾受けられるように支援している。	本人または家族の方々が希望する医療機関で適切な医療を受けることが出来るように常に支援を行っている。現在、歯科、眼科で掛かり付け通院されている。	○	今後も入居者様、ご家族様の希望を取入れていく。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	本人や家族と相談しながら受診出来る医療機関を決定しているが本人や家族了解の上、協力医療機関のDrが主治医として診察を行い、入居者個々の健康の変化について把握を行っている。	○	今後も現在の関係を継続していけるよう協力し専門的なアドバイスを頂く事で日常ケアに活かしていく。
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	協力医療機関で2週間に1回(1名の入居者に対して)訪問診療を実施しておりDrに同行するNsを窓口でDrに指示を仰ぐ体制が出来ている。	○	今後も直ぐに相談が出来る関係を継続し更なる連携を深めていく。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	病院関係者との情報交換を多く持っている。又お見舞いを多くしていく事で不必要な入院とならないように努めている。退院後の生活に不安が生じないよう身体状況を考慮した支援を行うように心がけている。	○	今後も早期退院に向けた連携を維持継続していく。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	終末期ケアが必要な入居者が入居した場合は早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合いを行い支援を進める体制がある。	○	今後、更に週末ケアを望まれる方が増える事が予想される為、職員個々の知識や技術の向上に努め、いかなる場合においてもスムーズに週末ケアが行える状態であるよう日々スキルアップに努めていく。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	常に専門領域を自覚し専門職の指示を仰ぎ支援を進めている。変化に対して柔軟に対応出来る体制で業務を遂行している。	○	チームケアの向上については様々な要素があり、個々の能力、職員間の声掛け、情報収集、情報共有その他にも多々あるが、これらが全て円滑に出来、十分な内容が伴う事でチームとして力を発揮出来るという事を今後も職員指導の一環として行っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>入居前の面談から個人情報の収集に努め入居前の自分らしい生活が継続されるようリロケーションダメージの解消に努めている。</p>	○	<p>今後もダメージを防止する為にご家族様やその他関係者と連携を深め支援を行っていく。</p>
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>入居者の方々一人一人の個性を尊重した声かけに徹している。</p>	○	<p>今後も相手の立場になり考える事や、尊厳を持って接する努力を行っていく。また、声掛け内容には十分注意し、何気ない言葉でプライバシーを侵害してしまう事のないよう職員間で注意指摘し合える関係の継続にも努める。</p>
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>常に選択の場面を作り可能な限り自己決定が出来るように支援を行っている。</p>	○	<p>希望を汲み取り易くする為に写真や絵を使って選択して頂いたり、TVや新聞、普段の会話の中からも情報や希望の把握に努めている。</p>
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>身体の健康と安全が保たれる範囲において行動の自己決定が出来ることと自分らしい生活が送られるように支援を行っている。</p>	○	<p>今後も個人様の生活ペースを大切にしながら本人様の希望に沿った毎日を送れるよう支援させて頂く。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>希望は申し受けています。元々馴染みのお店でパーマをかけて来たり、甥っ子さんの理容室に行ったり、娘さんが美容師で来てくれたりします。</p>	○	<p>入居者個人様の好みを把握して、身近な帽子や、ネックチーフなどで能力や状態に合わせその人らしいおしゃれの支援に努めている。</p>
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。</p>	<p>職員、入居者協働で食事の準備を行っている。年齢や健康状態を考慮して身体的負担にならない範囲で可能な力を発揮してもらえるように支援を行っている。</p>	○	<p>準備や片付けについても見守りや一部介助を行いながら出来る事をやって頂けるよう更に支援継続し、一層食事が楽しみと感じられるよう取組みを行う。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	入居者の方々が望む嗜好品に関しては健康に影響がない程度に希望実現が出来るように日々支援を行っている。	○	喫煙についてはホーム内禁煙となっており、全入居者様及びご家族様に事前説明を十分に行う事でご理解頂いている。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	加齢並びに認知症の進行に伴い尿取りパットを使用する方が多くなりますが日中で、トイレでの排泄に力を入れ、排尿時間や間隔を把握し快適な生活が出来るように支援を行っている。	○	日々オムツ使用を可能な限り少なく、自立に向けた取り組みに努めている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴日は決めているが(月・水・土)入居者の方々が希望すれば入浴出来るように準備はしている。	○	入居者個人様様の希望に沿い、気持ちよく入浴して頂けるよう今後も支援継続していく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	昼夜逆転等の不快な状態が予想されない限りにおいては自由に生活が送られるように配慮し支援を行っている。	○	休息についてもソファーや居室で休んで頂く等、個別対応を今後も継続していく。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活層や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	家事活動への参加や買い物、外出は気分転換を考慮して入居者の方々に誘いながら支援を実施している。又カルタや百人一首はほぼ毎日、麻雀教室は週に1~2回開いている。	○	今後も個人様様の個性やバックグラウンドを踏まえた上、活躍の場や役割、楽しみごとを提供していく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理に困難があることと共同生活での盗難事故、紛失事故を考慮して金銭の自己管理を行っている方はいない。しかし、希望があれば家族の方々と相談を行い実現出来る体制である。	○	管理出来ない方にも買い物等に出かけた際には本人様の財布に金銭を入れ自身で支払をして頂く等、安心や自信に繋げる支援を行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	可能な限り個人様様の希望に沿った外出、庭への散歩を支援しており、その日に実施出来ない場合でも近日中に実施する事で気分転換を図っている。	○	月～土曜日の午前中希望者が毎日、整骨院に通うなど、安全面に配慮しながら可能な限り外出機会を持てるよう努める。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	個人様様が行きたい場所を把握するよう努め、行事立案の際に希望を取入れたり、ご家族様と共に掛けて頂いたりしている。	○	今後更に可能な限り個別対応を推進して行きたい。また、行事にはご家族様も参加して頂けるような機会を増やして行きたい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	行っている。いつでも自由に家族の方々と電話出来る体制であり手紙についても同様である。	○	今後もプライバシーに配慮しながら個人様様の能力に応じた必要な支援を継続していく。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	常に気軽に訪問出来る雰囲気と環境作りに心がけている。また現在も自由な雰囲気家族の方々が面会に来ている。	○	今後も居心地良く過ごせる雰囲気作りに努め、コミュニケーションや情報交換等が円滑に行われる関係作りを目指していく。
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は原則的に行ってはいけないことは全職員が理解している。	○	今後も身体拘束のないケアを実践していく。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	札幌市内の交通の多い地域にあるため安全を確保するためやむをえず電子錠をかけている。	○	時間帯により安全確保した上で開錠出来る環境作りに努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○利用者の安全確認</p> <p>67 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>入居者の個人特定の内容や他者に聴かれない内容の会話内容は直接居室で本人と話したり耳元で伝えるなどの配慮を常に行っている。</p>	○	<p>職員間で声掛けを行い入居者様の様子を把握し、必要な際は迅速な対応がとれるよう今後も努めていく。</p>
<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>68 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>はさみ類などは職員の方でお預かりさせてもらっているが必要に応じいつでも渡せるようにしている。</p>	○	<p>個人様の持ち物については能力に応じ、本人様及びご家族様のご理解を頂いた上、安全確保の為に管理を行っている。</p>
<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>69 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>転倒を想定した環境の整備や救急時に応急対応、避難訓練の実施など非常時に備えて訓練を行っている。</p>	○	<p>事故の再発を防止出来る様、事故報告書を活用している。又、ヒヤリハット事例を元に事故を未然に防ぐ対応策についても検討が行われている。</p>
<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>70 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>応急訓練については年1回を予定としてこれまでに実施されている。</p>	○	<p>今迄の事故や急変時等の事例を基に、より具体的な対応マニュアル等を作成して行きたい。</p>
<p>○災害対策</p> <p>71 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>身体状態、歩行状態に合わせての避難誘導の手順が出来上がっている。</p>	○	<p>近隣の方々の協力体制についても運営推進会議を通して理解が深まってきていると感じる。今後更に訓練の中で緊張感を持ち、実際の災害を想定した様々な状況下での職員対応を養って行きたい。</p>
<p>○リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>72 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>入居時重要事項説明時に、話させていっている。他個別に実施している。</p>	○	<p>自立支援を行う上でのリスクは特にプライベート空間で発生するケースが殆どであるが、入居者個人様の生活スタイル等を把握し安全な環境整備に努める事で可能な限りリスク幅を軽減していきたい。</p>

(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	変化を確認した場合速やかに複数勤務者で確認(夜勤帯は計画作成担当者あるいは管理者に報告)後主治医に連絡し指示を仰ぐ体制が常に取られている。	○	今後も迅速に適切な対応をとれるよう努める。又、自ら訴える事の出来ない方については特に注意して様子観察を行なっていく。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	全職員理解に努め把握を行っている。	○	服薬管理については業務の一流れとして捉える事なく、複数の職員が確認出来、責任の所在についても明確としている。また、服薬方法も法人で取り決めた統一対応を行っている。今後更に処方箋変更時等に十分注意し対応継続していく。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分の提供、食物繊維が多い食事の提供に取り組んでいる。	○	今後も食事・運動への取組みを実施していき、自然排便が出来る様支援継続していく。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	その時の状況及び本人様の意志により毎食後実施出来ない場合があるが、その場合もうがい等の促し継続しており口腔状態が最善に保たれるよう支援している。	○	三食後磨けるように支援を行う。自立度の高い方々には毎日の促しと認知力が低下している方々には職員の方で出来ないところを支援し可能な限り自力で行えるように支援を行ってゆく。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎日の食事摂取量と水分摂取量は一冊の綴りにバイタルチェックとして記載し読み返せる記録として保存し身体状態の変化に応じ救急時持ち出せるようにしている。	○	摂取量の少ない方にはチョコレートやエンシュア等の補食について対応しており、今後も個別対応を継続していく。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人で作成した感染症マニュアルに基づいて実行している。	○	感染症に関する知識と対応について、研修会等の参加により情報収集を行い、その内容を職員間で共有する事で更なる予防の徹底に努めていく。
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	布巾、まな板等の消毒や賞味期限の確認は確実にを行い消毒清掃に心がけている(漂白剤使用)。	○	今後も継続し衛生管理の徹底と食中毒予防に努めていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	庭や玄関回りに花を植えたり、1年を通して季節に応じた置物等置いて親しみやすい環境作りに心がけ施設周囲の清掃にも配慮している。	○	今後も家庭的な雰囲気作りに努めていく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	音に関しては激しい音を出す掃除機から音がなく塵ゴミを集めることの出来る業務用の乾燥モップを使用して掃除は最後の集まったゴミを集める程度にして生活内に不快な機械音が長時間流れないように配慮を図っている。光についても同様で過剰で不快な光線を発するものは一切なく自然光に対してもブラインドで遮光が図られるようになっている。	○	今後も入居者個々人様に生活上の不満点等伺いながら、一層快適に生活して頂けるよう努めていく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食堂の自分の席、応接ソファ、廊下の端に設置されたソファ、そして自室と交流を図る場所と一人静かに静養出来るスペースを確保している。	○	今後も安全確保に注意しながら個々人様が思い思いに過ごせる空間作りに努めていく。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時から自分が使い慣れ親しんだ物(家具等)を持ってこられることを提案させてもらっている。仏壇なども持参されている。	○	今後も日常生活に本人様、ご家族様と相談しながら懐かしみのある物品や馴染みある物品を取入れ、その人らしい生活が送れるよう支援を行っていく。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	常に換気には心がけている。	○	各居室に温湿度計を設けており、適切な温湿度が保てるよう配慮している。今後も継続していく。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ユニットの壁には全て安全歩行の支えとなる手摺りが設置されている。浴室、トイレも同様である。	○	今後、入居者様個々の身体状況や認知力に合わせた環境整備に努め、入居者様が自身の能力を活かして生活出来る環境を目指したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>トイレ、風呂場、自室とさり気ない配慮としてさり気なく表札をかけ失行、失認が最小限度で軽減されるような配慮がなされている。</p>	<p>○</p>	<p>今後も個々人様のわかる力を活かし、自立して暮せる環境作りに更に努めていく。</p>
<p>87</p> <p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>施設の敷地は駐車場も兼ねているが、バーベキューをしたり、日光浴や花畑が観賞出来るようにベンチを設置して余裕あるスペースが確保されている。</p>	<p>○</p>	<p>今後もホーム周囲の空間を利用し入居者様が活動出来る様、安全確保を行いながら支援を継続していく。</p>

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ○ ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ○ ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ○ ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている ○ ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ○ ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ○ ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている ○ ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ○ ① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ○ ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p><input type="radio"/> ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p><input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)